

2019 年度 A O 選抜 経済学部
「英語重視方式」

【選考講評】

1. 実施状況

入試趣旨、志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際専攻	42	24	11

経済学部は 2017 年度にカリキュラム改革を実施し、高度な外国語運用能力とグローバルな視野の育成を教育の主軸に置く国際専攻を創設しました。これに伴い、経済学部国際専攻では、以下のような資質と意欲を持つ志願者を対象とする AO 選抜入学試験「経済学部『英語重視方式』」を実施しました。

- ① 高等学校在学中、学習や各種活動（生徒会活動、課外活動、地域活動、国際交流等）に熱心に取り組み、それらを通じて外国語運用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけるとともに、立命館大学経済学部での強い学修動機を持ち、入学を熱望する人
- ② 入学後は、経済学部での学修と各種留学制度等を利用し、積極的に海外での学びを志向するとともに、卒業後、国際的視野で活躍するキャリアビジョンと可能性を持つ人

英語能力に関する所定の要件を含めた出願資格を満たす志願者に対し、書類審査（第一次選考）、個人面接（第二次選考）を実施しました。その結果、志願者数は 42 名、第一次選考合格者数が 24 名、第二次選考合格者が 11 名となりました。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

第一次選考に際して、出願者が提出する書類は、入学志願票、調査書等、出願者申告書、志望理由書、英語外部資格試験の証明書のコピーです。

出願申告書では、①正課（学習）における取組状況や成果、②立命館大学経済学部への志望動機を持つに至った高等学校在学中の各種活動経験の記述を求めました。

志望理由書では、①経済学部経済学科国際専攻で入学後に学びたいテーマと高等学校での活動を踏まえた志望理由、②大学卒業後の国際的視野でのキャリアビジョンについての考えの記述を求めました。

(2) 第二次選考

第二次選考では、出願書類に基づく個人面接において、志望動機、高等学校在学中の各種活動経験、入学後に学びたいテーマ、経済学分野に関する興味・関心、大学卒業後のキャリアビジョンについての質疑(日本語と英語)を行いました。

3. 出題の意図

(1) 第一次選考

高等学校における諸活動、経済社会への興味・関心、グローバルな視野でのキャリアビジョン、経済学部経済学科国際専攻への志望動機の強さについて、的確に伝えられる文章力と論理力を確認することを目的としました。

(2) 第二次選考

出願申告書や志望理由書に記述した内容を自分の言葉で分かりやすく伝える力、コミュニケーション能力を確認することを目的としました。一部、英語での質疑により英語運用能力の確認を行いました。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

「出願申告書」、「志望理由書」の全体で、論理的で説得力のある文章を書く力を見ました。高等学校における正課・課外の活動状況、経済社会への興味・関心、志望理由、キャリアビジョンに加え、受験生のものの考え方、特徴、人柄について、正しい日本語で説得的、論理的、具体的に書かれているかを評価のポイントとしました。

(2) 第二次選考

経済社会への興味・関心、志望理由、キャリアビジョンに関する質疑に対して、自分の言葉で分かりやすく、的確に返答ができるかを問いました。日本語と英語でのコミュニケーション能力の高さを評価のポイントとしました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

「出願申告書」、「志望理由書」、双方において、不十分な文章が多数見られました。具体的には次の通りです。

1. まず、経済学とは何かを理解していないものが見られます。経済学について易しく書かれている書物が、今日では多数出版されていますので、それらを参考にしたり、また、親や教員に尋ね、インターネットで調べたりすることもできます。しかし、そうしたものはごく稀でした。
2. 文章の論理展開がなっていないものが見られます。大学において学びたいことと将来やりたいこと、また、そう考えるようになった理由を説明する際に、その関係性が練られていません。

AO 選抜入学試験選考において、これらの書類は数少ない判断材料であり、非常に重要であることから、その重みを意識し丁寧に書いたものを高く評価しました。

(2) 第二次選考

高等学校在学中の学習や各種活動経験に関しての質疑には的確に返答できる受験生が

ほとんどでした。入学後に学びたいテーマに関しては、大学のホームページなどをしっかりと調べた受験生もいます。その一方、基本的な情報の確認を怠っていたり、経済学、または、学びたいテーマに対する受験生自身の理解が未熟であるが故に、少しでも詳しく尋ねると的確に回答することができない受験生が大勢いました。

なお、英語での質疑応答に関しては、ほとんどの受験生が想定していた基本的な問いはそつなくこなせており、総じて見ると、英会話能力は高かったのですが、上記同様な内容が伴っておらず、その英会話能力を活かせていない受験生が多かったです。

6. 総評

AO 選抜入学試験では、入学後、課程をこなすために必要な、調べる、考える、伝える能力を、一般の学力試験に代えて、出願書類や面接において確認を行いました。「英語重視型」とはいえ、第一次、第二次選考共に、本学部で学びたいことをしっかり考えているかが合否を分けています。

7. 次年度受験生へのアドバイス

立命館大学経済学部国際専攻 AO 選抜入学試験では、優れた英語運用能力のみならず、本学部で経済学を修めるのに必要な能力と経済社会に対する高い問題意識を有している人物を受け入れることとしています。従って、高校における日々の学習活動の中で、総合的な力量を培うことが重要です。

自身を成長させるような様々な活動に取り組む中で、経済社会に対する問題意識を磨くようにしてください。世の中で起こっていることは決して他人事ではなく、自身にも関係のあることという意識を持つことが重要です。そのためには、日常的にニュース・新聞に接し、経済社会で起こっている問題について考え、また理解を深めるために自主的に調べることが必要です。そして、自身の意見を文章にまとめたり、他の人と議論をしたりするなどして、伝える力を身につけなくてはなりません。

英語に関しては、基本的な語彙や文法を用いて、自分の言葉として意見が伝えられるように、スピーキングやライティングにも力を入れて学習することを勧めたいと思います。ただし、本学部で学びたいこと、また将来したいことについてしっかりとした意見が持っていないようであれば、伝える内容が伴わず、せっかくの英語力も生かすことができません。経済学とは何か、そして、なぜ経済学を学びたいのかをしっかりと考えることが必要です。

以上